

令和 8 年度第 1 回鳥取県史編さん会議社会部会（概要）

日時：日時令和 8 年 7 月 16 日（木）

午後 1 時～午後 2 時 30 分

会場：公文書館 2 階会議室

（出席者）委員：長 部会長、内田委員、加川委員、青木委員、樫村委員

（オンライン参加）松岡委員、中間委員、人見委員、岸本政治部会長

公文書館：西村館長、高橋専門員、長澤専門員

1 開 会

（1） 館長挨拶

- ・ お集まりいただきありがとうございます。本日は先生方の顔合わせと、執筆項目の協議をしていただき、ご意見を元に今後調整をしていきたいと思ひます。資料調査等についてもご説明します。よろしくお願ひします。

（2）自己紹介

2 協 議

（1） 執筆項目について

① 西村館長より協議資料 1 - 1 社会分野執筆項目について説明

②（加川委員）

- ・ 事務局に示した第 2 章「福祉行政のあゆみ」の想定項目は、現在の節立てに代えるものではない。現在の節立てはいずれも対象者に着目したオーソドックスなものだが、通史としてはある程度画期を区切り、戦後史の流れを時系列的に見る視点もあつてよいのではないか。両方の視点を合わせて書いていけたらと考えている。
- ・ 戦後の障害者福祉の出発点としての傷痍軍人の問題は重要。
- ・ 戦没者・引揚げ者の問題は、政治分野と重複しており調整が必要。政治分野で専門的な方にお願ひするか、困窮等に対する福祉的な支援ということで福祉行政で扱うか。

③（西村館長）

- ・ 第 2 章と同様にハンセン病・売春防止法・同和対策等も、国策に重点を置くか人権の問題を中心に据えるかということが出てくるとおられる。

④（長部会長）

- ・ 上記の問題提起については、今後検討を進めていきたい。

（2） 執筆の進め方について

① 事務局より協議資料 2 - 1 の 1 ～ 4 の説明

『新鳥取県史通史編・現代 1』

- ・ 巻構成…全 2 巻

- ・執筆分量の目安…1節 800 字×20 ページ程度
コラム 800 字×2～4 枚程度
- ・原稿料…400 字当たり 2,500 円予定
- ・刊行までのスケジュール…資料調査（令和 8～9 年度）→執筆（令和 10～11 年度）→原稿締切（令和 12 年 3 月末）→編集・調整（令和 12 年度）→刊行（令和 13 年 9 月）

（３） 「編さんの柱」について

- ① 西村館長より協議資料 2-2 「編さんの柱」について説明
- ② （人見委員）
 - ・「編さんの柱」にある問題意識・編さん方針に共感する。柱の協議の中に、女性に関わる LGBTQ・クィアについては出てきたのか。
- ③ （長部会長）
 - ・柱についての協議の中では LGBTQ・クィアについては取り上げられていない。しかし、現在までに県がどういう議論を進めているかによって、当然叙述に反映させて議論する必要がある、5 年後の刊行までにはもう少し多様性が出てくるかもしれない。
- ④ （西村館長）
 - ・これらの問題はこの 10 年ほどの間に顕在化してきたもの。今回の現代 1 で扱う 1999 年までには出てこないだろう。
- ⑤ （長部会長・加川委員・西村館長）
 - ・叙述の内容は 1999 年までに限定するものではなく、1945 年までの前提、2000 年以降の射程といたった展望的な記述は必要。各章・各節の冒頭にそのような部分を置く等のやり方が考えられる。また、それぞれの事項については、糾弾することは避けつつも、執筆・刊行される今の時点から見た位置付けもある程度含まれるだろう。
- ⑥ （松岡委員）
 - ・ハンセン病問題では、2001 年の国賠訴訟以後の比重が大きい。運動団体の方針や入所者の方々の気持ちに配慮する書き方が求められるので、アドバイスをお願いしたい。

（４） 資料調査について

- ① 事務局より協議資料 3-1 及び 2-1 の 5～7 の説明。
 - ・提供可能な公文書館所蔵資料の種類と数、検索方法。
 - ・資料提供方法（クラウド利用・紙資料送付等）、来館調査、館外調査等、いずれも可能な限り委員の皆様の便宜を図りサポートするよう努める。
 - ・当館所蔵の資料の閲覧・利用については、誓約書を書いていただいたうえで、利用していただく。

（５） その他

- ① 事務局より協議資料 4 の今後のスケジュール案を説明
第 1 回社会部会以後…各執筆者の資料調査

令和 9 年 1 月…第 2 回県史編さん会議社会部会

令和 9 年 2 月…第 2 回県史編さん会議

令和 9 年 3 月…第 1 回県史編さん委員会

②（西村館長）

- ・ 今後は事務局で行っている町村資料調査の結果や、他部会の協議内容も皆さんにお知らせして共有していく。

③（樫村委員）

- ・ 前回の県史編さんの時と同様に、県史のために集めた資料を利用して、執筆者が発刊までの間に個人の論文や紀要などに利用してかまわないということでよいか。（→問題ないと思われるが検討してから決定する（岸本会長））

④（岸本会長）

- ・ テーマの重複する箇所については、今後部会の意見をもらって全体として調整したい。
- ・ 社会分野 1 章 4 節の学生運動については資料が見つからず、現在自分が大学 OB の関係者を通じて聞き取り可能な方がいないか探している。

5 閉 会